# 令和７年度　第１回松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

１　日時
令和７年６月２３日（月）　午後２時～４時

２　場所
ジェンダー平等センター　ネットワーク室

３　出席委員（１２名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会長 | 佐藤　友則 | 副会長 | 犬飼プリヤモン |
| 委員 | 村井　博子 | 委員 | 青山　茂 |
| 委員 | 陳　思静（オンライン） | 委員 | 持山　シャロン |
| 委員 | 大石　美香 | 委員 | 土谷　未来 |
| 委員 | 櫻井　健 | 委員 | 岡田　忠興 |
| 委員 | マキナリー　浩子 | 委員 | 永井　文治 |

４　参考意見説明者
丸の内ビジネス専門学校教員グループ長　佐藤　佳子　氏

５　事務局

| | | |
|---|---|---|
| 住民自治局 | 局　　長 | 甕　国人 |
| 住民自治局人権共生課 | 課　　長 | 松本　志保 |
| 同上 | 課長補佐 | 山本　修平 |
| 同上 | 主　　事 | 小山　結 |

６　会議次第
⑴　開会・あいさつ
⑵　新委員自己紹介
⑶　会議事項
　ア　プラン策定スケジュールの確認
　イ　第４次プラン素々案の説明
　ウ　日本語教育の現状
　エ　休眠預金事業の説明
⑷　閉会

７　会議の要旨

（「第４次松本市多文化共生推進プラン策定スケジュールの確認」及び「第４次プラン素々案」について、資料を用いて事務局から説明）
（「日本語教育の現状」について、丸の内ビジネス専門学校教員グループ長から資料を用いて説明）
（「休眠預金事業」について、資料を用いて会長から説明）

会長
　ご意見ある方から、挙手をいただき、ご発言をよろしくお願いいたします。

委員
　　基本理念のところで二つの意見があったと思います。
　　案１「「世界中から人が集い　住まうまち　国際都市　まつもと」
　　～多様な人々が行き交い、安心して暮らせる、活力あふれるまち～
　　案２「言語・文化・心理的な違いを越えて輝き、発展する松本」
　　～国籍や人種にかかわらず、違いを認め、多様性を活力に変え発展するまち～
で、ちょっと見方が違うと思うんですけれども、言葉の問題になるのかもしれませんが、案１の国際都市という捉え方が、人それぞれの捉え方が違うし、自分の毎日の生活と国際都市ってかけ離れている感じがします。
　国際化を目指すということはちょっと違っていて、私達が目指しているのは、多文化共生を目指していますよね。多文化共生イコール国際化というのはちょっと違うんじゃないかなと思っています。ですから、国際都市とか国際人とか国際化とか、そういう言葉は、避けて、むしろ本当に私達が目指す「多文化共生」という言葉、場合によっては「多文化共生都市」とかそういう言葉に置き換えた方が市民の皆さんには、かなり自分自身の毎日の生活につながるのではないかなと思います。
　ですから、基本目標のところも、２のところが松本の国際化ってありますけど、松本の国際化っていうのも、なんか 10 年前の資料のような感じに私には聞こえる。それよりも松本の多文化共生化の方が、自分の生活と異文化の人とか、外国籍の人との共存というところで結びつくのではないかなというのは感じました。

会長
　基本理念のところ、私も実は同様に感じていました。私の方で案の１を少し変えたものを考えてきたので、少しだけ読ませてください。
　「世界中から人を集め、松本人と共に創っていく多文化共生都市」
というのを上の行のところで挙げ、下のところでは、

～多様な人々が行き交い安心して暮らせる活力あふれる松本～
という形にしてみるのはいかがでしょうか。またこれを皆さんに叩いていただければと思います。
私はこう考えたのはやっぱり主に市長の思いですね。とにかくこれを世界にアピールするんだ、多文化共生をメインストリームでやるっていうのをどんどん表に出していくんだっていう思いをかなり感じました。

委員
案を二つ出していただいたんですけれども、いずれもメインのタイトルが冗長っていうか、ストレートにすっと入ってこない気がします。メインの方はシンプルな、すっと心に響くような言葉で締めて、サブタイトルの方で説明的なことを付け加えるっていうような形にした方がよろしいんじゃないかと思います。
まず案の１の方は、「住まうまち」というのと、「国際都市」というのが重複していますし、集い、住まうというのはわかるんだけども、例えば世界中から人が集まる多文化共生都市松本とかっていうふうにした方がよろしいんじゃないかなっていうふうに思いました。

委員
企業とかでは国際とかはあんまり言わないで、グローバル化みたいになるとわかりやすいかも知れない。

会長
ただ、グローバル化というと、どちらかというと移動というイメージが強いです。
企業も大学もやはり留学生が来たり教員が来たり移動していくといったイメージです。企業で言えば、様々な人、物がどんどん動いていくイメージですね。
ただ今回の松本市のこういったプランに関して言うと、私としては、もっと人が来て、住んで、ここで創っていく、定着していく、そういったイメージが欲しいなとは思います。

委員
私も会長のご意見にすごく賛成です。そうとなると、これを聞いたときにそうだそうだって共感するのは企業というよりも、松本の市民の一人ひとりだと思うんです。そうすると皆さんにとって、案の１と２を比べたときに、自分の

行動を顧みるというのかな、「こうしなきゃいけないよな」っていうふうに、自分が顧みる言葉としては、私は案の２の方がいいのかなって思います。
　多文化共生って誰かがやってくれるものじゃなくて、一人ひとりが変わらなければいけないものだと思っています。一人ひとりの行動やマインドが変わらないといけないので、そうなると一人ひとりへのアプローチの言葉の方がいいかなっていうふうには感じましたので案の２がいいと思います。これは私の個人的な意見です。

委員
　私の意見としても基本理念について１案と２案でしたら、２案の方が好きだというか、自分が見るとしたらこっちの方が惹かれるなっていうふうに思います。
　１案の方は、イメージ的に観光客がメインターゲットみたいなイメージを受けてしまって、それに続いて、次の基本目標も交流っていう一番の括弧内について、観光客から始まっていること自体もちょっと違うって思っています。地域住民や外国ルーツの方、観光客も含めっていう観光客を最後にしてほしいと感じています。住んでいる皆さんがメインの方たちなんだっていうところは、細かいところではありますが気を使っていただきたいなと思いました。
　そして先ほどのご意見の中で、メインの言葉をもっと短くするほうがいいなとは思うんですが、何かいい提案をお持ちかどうかを伺ってみたいなと思いました。

会長
　私も最初に見たときは案の２でした。それがガラッと変わったのは、やはりプランというものがどういう位置付けか、そしてやはり市長がこのプランをどういうふうに考えているか。
　残念ながら、私も第１次からずっとこの第１次、第２次、第３次のプランを15年以上に渡って関わっていますけど、松本の人がこのプランを見て、誰もがこの理念を言えるなんてことは一度もなかったんですよね。
　そう考えた場合には、松本の人に受けるようにしたほうがいいというよりも、見た人がむしろインパクトを受ける、そういった理念の方が私はいいんじゃないかというふうに思うようになりました。
　それが２ではなく、私がさっき言ったように、１をいわば大きく改変した案の方が妥当というふうに考えるようになった経緯です。
　もし上の行はシンプルにというんであれば、私がさっき言った「世界中から人を集め松本人と」っていうのは、全部取ってしまって、「市民とともに創っ

ていく多文化共生都市」ぐらいな感じで、創っていくということと、やはり多文化共生都市とする。下のところは、行き交い、安心して暮らせるとする。行き交いというところは、委員がおっしゃるように、多少ちょっと観光客寄りの面はなくはないんですけどね。

理念的には案の２の方が私もしっくりは来ます。ただ今回のプランの最初にどんと出して、松本市として、どれぐらい市民の心に届くかわからないんですけれど広くバンバン広報していくものとしては、どん。とインパクトがあるものがいいなと考えるようにはなりました。

委員

多文化共生を推進していくのは、確かに一番最後は市民の一人ひとりだと思うんですけれども、そこに持っていくという段階を必死でやっていただくのは、行政の方とか、公共に関わる様々な方々だと思うんですね。そうするとその人たちの気持ちが一致して、市民に届けることが非常に重要になるのかなと。そうすると、やっぱりみんなが一言で言えるような、例えば今、会長がおっしゃった、私すごいシンプルでいいなと思ったんだけど、「市民と創っていく多文化共生都市松本」みたいな、そのくらいストレートで短い言葉が確かにいいのかなと思いました。

委員

確かに案の１を見ると、私からしてみると、コマーシャルみたいな、本当の気持ちがない感じがします。

お客さんがこれ買っても、でも実際使っていないっていうのと同じような感じです。外国人にも日本人にもシンプルなのが一番心に残るかなと思います。

ここの皆さんの意見を聞くと、もし案の１をどうしても出したいのであれば、その下もうまく混ぜて作ってもいいかなと私は思っています。

会長

この～のところの、多様な人々が行き交いってある部分に、言語・文化・心理的な違いを超えて、発展する松本であったり、そういった形に合わせていくというのも、一つの案でしょうね。

委員

今皆さんの意見を伺ってて思ったんですけれども、タイトルとして、誰に対して訴えかけるのかっていうところ、そこをまず一番最初にポイントとして定めないと、この先話が進んでいかないんじゃないかなと思いました。

市民の心を動かすようなタイトルにするっていうのも一つだし、外から見て松本市がこういう街だっていうところを、外に向かってアピールするっていうのが一つだと思います。また一つ考えなきゃいけないのが、反対の意見というのも当然あるわけですから、そこに向けて何か動かすようなアピールの仕方っていうのが一つあると思うので、誰に向かって訴えていくのかっていうのがまず一つの重要なポイントだと思います。

事務局
事務局から質問があるのですが、市民とともに創っていくという案がありましたが、市民とした方がいいのか、松本に住んでいる人として、分け隔てなく、国籍は関係ないということで、松本人という言葉を選んでいたんですけど、やっぱり市民っていう方が伝わりやすいのかというところをお伺いしたいです。

会長
ある程度市民っていうと、何か枠がありますよね。
松本に住んでいる全ての人というよりも、ちゃんと登録をし、税金を払っているみたいなそういうふうなイメージが確かにありますね。
ある程度、実際にこのプランの目標そしてノルマという形で動かしていくのは行政の方々であり、そして、その方々がこっちの方向に向かってやっていくぞっていう覚悟をしてくれること、また、対外的にも大きくこっちの方向に松本は進んでいくんだっていうふうに見せるんですよね。
この理念は、おそらく全ての書類の一番上のところに書かれる文言なんですよね。
そういう位置付けで進めていくのがいいんじゃないかとは思いました。

委員
私は今お伺いしている中だと、市民っていう言葉の方がしっくりくるのかなっていうのが私の印象です。
私も普段色々な在留資格をお持ちの方であったり、色々な国の方とお話してる中で、やっぱりそれぞれの皆さんの人種に関わらず、違いも認めっていうのもすごくいい言葉だなと感じているので、今悩んでいるところです。

委員
私どもは会社なので外国人の、技能実習生とか特定技能の方を、ここのところずっと毎年 30 人ぐらいずつ抱えていまして、もうこれで８～９年目ぐらい

になります。
　皆さんも本当にこの多文化共生というのが、おそらく地域住民と外国籍の方たちとの日常的な生活の中での問題とか、住みやすさとかいろんなことが多分一番のこの争点というか、今後の受入れのための会議というふうに私もうけとって聞いております。
　当社自体の感じをお話ししますと、受け入れ当時は、本当に腫れ物に触るじゃないですけど、非常に気を使って、ちょっと別物として、実習生だからという目線で受け入れをして、当時からやはり労働力という部分は否めない部分がありながらずっとやってきました。しかしやはり何年も重ねてきますと、社の中に外国人労働者が 20 人～30 人いますけど、当たり前になってきて、大事な存在になってきています。
　始めた当時は、いろんな地域に住んでいますが、その近隣の方との生活で色々な問題が結構ありまして、私もしょっちゅう呼ばれて、近隣の方にお詫びに行ったりとかそういうことには対応してきました。しかし、実はここのところそういうこともなくて、裏返しに言うと、我々もそういった外国の方たちに対しても慣れた部分もありますが、おそらく近隣の方も、この環境に慣れてきたんだなっていうのは非常に感じているところです。
　本当に当たり前に日常の中にいて、その中でお互いの生活をして、ただしルールを覚えなきゃいけないとか、生活習慣は確かに全然違いますので、そういったところは目の当たりにして、そういうものだというものを我々も順番に理解してきています。会社の仲間もそういう人たちの接し方も慣れてきた部分もありますが、そういう中で受け入れをして、日常的なことが回っているようになってきました。
　だから日常に存在しているのが当たり前になってきたっていうのは、ここ８年ぐらいたって非常に感じているところであります。
　現在まだまだ、反する勢力というか、そういった人たちも多いことは当然あると思いますが、もうこれからの世の中というか、松本に限らず、日本全体が、やっぱりそういう人材が普通に当たり前に存在していて、それがお互いに共存共栄して、生活して、会社が世の中で成り立っていくっていうのはもう当然の時代になってきています。
　また、観光という部分で、松本も非常にインバウンドの方が多いです。私どもも仕事上、ホテル関係の仕事もやっているものですからそういった部分、当たり前に接する機会が多いのですが、やっぱりこういう時代になってきたからこそ、外国由来の人たちが、本当に安心して生活できる環境を周りも受け入れながら創っていくべき時に来ているなっていうのは実感として感じています。

会長
　本当に貴重なお話をありがとうございます。
　やはり現場で、留学生のような客ではなく、本当に社員で住民の方と接している、そして８年に渡って、ずっといろいろな変遷を見ていらっしゃる委員さんならではの、大変ありがたいお話でした。学ばせていただきました。
　特に日常っていう単語ですよね。本当に彼らがいることも住むことも、そして外国人労働者として活躍してくれることも、それも全てが日常であり、もう本当にそれが日本の今後の普通の状態になっていくんだと思います。
　そのような状況に本当に松本の多くの近隣の方々が嬉しいですよね。彼らもある程度こういうもんだねと、一方で住んでる外国人労働者の方々もかなり学ばれたんだと思うんですよね。やっぱり 10 時過ぎたらちょっと音下げようとかとか、あんまり外でバーベキューはやめようとかいうのをおそらくかなり学ばれていると思うんですよね。それが先輩が後輩にそう伝わっている、それは本当の共生だと思います。
そういったものがイメージできるような、理念にしていけるといいですね。
ありがとうございます。

委員
　何かどうも日本語っていうイメージがですね、硬いような気がするんです。体系図の右上に四角い枠が書いてありますよね。
　「松本市全体で多文化共生という意識が当たり前のものとして捉えられるようになる。」これは松本市民以外の方も同じように共感共存できるように意識を高めていく、いわゆる高揚していこうということであれば、あまり難しい日本語を使わないでも、もっとわかりやすい日本語や使い方があるんじゃないかと思います。
　そういうことで、松本ってすごい興味あるし魅力もあるし素晴らしいなというような生活感がもうその方からあふれるような環境にできるようにするならば、言葉をもう少しやわらげるといいかなというふうな感じで思っております。
　確かに皆さんのご意見は素晴らしいご意見でございますけれども、団地に住んでいる方も外国人住民が多いですが、ただ挨拶するだけでもですね、もう十分それで興味が湧く。顔がニコニコしている。もうそれだけでも十分なんですよね。
　それから何か生まれるようなものがあるはずなんですね。そういう生活感がにじみ出るような温かい松本市民っていうのは生まれてくるんじゃないかと思います。

改めて目標も理念もこうして持っていくのはわかりますけれども、もっと分かりやすい日本語で書いていただけるともっと周りの方もついてくると思います。

委員
基本理念の方じゃなく、基本目標についてですが、私の個人的な感想を含めて、やはり２番のまつもとの国際化という言葉ですが、20 年以上前の私の大学のゼミで、北海道の国際化を問うっていうタイトルで、大学の学生でゼミをやったんです。それでこのタイトルを思い出しました。このときは北海道がいかに世界に向けて発信してるかっていう側面が大きな部分で、それに付随して、まだ多文化共生という言葉がその頃はなかったものですから、内なる国際化ということで明らかに外国人というか、欧米人にアンケートを取るようなゼミをしていました。やはり友達に聞いても国際化というのは、外に出ることだと思ってる感じが多くて、私も今でも国際化っていうと外に出るのかなというイメージがあって、逆に今の、多文化共生っていうものは、街の中が国際化することかなっていうイメージを持っています。皆さんどのように受け止めてらっしゃるのかわからないんですが、その国際化っていう部分が２番のところがもし変えられるのであればいいのかなと思います。ただどのような言葉が最適かっていうのはちょっと難しいです。
あとこの目標の内容の部分ですが、行政、企業、医療、介護の外国人受け入れ体制の強化っていうのは、これは外国人がその分野を受けやすくするという意味でしょうか。つまり、その分野を外国人に担ってもらおうっていうものでしょうか。

事務局
外国人住民、労働者への支援の充実と、担ってもらうという意味での受入れ体制の強化と、両方を含んでいます。

会長
プランとして、文書とネットという形で外に大きく見せていくっていう意味では、やはり委員さんが悩まれていたように、ワードをどういうものを使うかというのは、かなり重要で、それの検討はやはり常に難しいですよね。

委員
長いキャッチフレーズは、多くの内容を伝えることが出来ますが、聞き流さ

れてしまい、心に響かない可能性もあります。
　そのため、キャッチフレーズはなるべく短い方がいいと思います。
　例えば、「みんなで創る多文化共生都市松本」のように短く、心に響くものがいいと思います。
　そして、標語はどちらかというと、決意表明のようなものを兼ねていると思いますので、案１、２で言うと、１に近い方が、運営していく事務局や行政側にとっても、モチベーションが高まるのではないかと思います。

委員
　事務局の方からも提案がありましたが、先ほどから松本人なのか市民なのかっていうところをちょっと考えていました。
　一つは外国由来の皆様、松本人って聞いてどんなふうに思われるのかなっていうのを伺ってみたいなと思ったんです。
　松本人って言葉、私達も使わないですよね。今まで使ったことがないので、もしここで使うとしたら、ほとんど初めて出会う言葉で、これ何っていう印象です。自分たちは内側にいるからいいんですけど、新たに見た方たちはどんなふうに思うのかなって感じます。
　松本人なのか市民なのか住民なのか、「みんなと」ってありましたがどれがいいか伺いたいです。

委員
　松本人とか市民とか住民とかを使うときに自分の立場が今どんな人なんだということを考えちゃうんですけど、やっぱり「みんな」だったら自分も入るみたいな感じがあります。
　この２の基本理念なら、「みんなで」を使ってほしいですね。この中で私が好きな言葉は、４つしかないんですよね。みんなで暮らせるとか、安心して暮らせる、違いを認める、多様性、それが好きですね。だから外国人の立場としては、できたら「みんなで」を使ってほしいなと思います。

委員
　確かに初めて聞かれました。今まで松本人とか信州人っていうテレビにも出たんですけど、その時は何も思ってなかったです。
　でも知り合いから、そのテレビに出たときに、信州人っていうよりフィリピン人の大切な人だよって言われて、確かにそうだったなと思いました。
　私のアイデンティティはフィリピン人はすごく残っているんですけど、松本人という言葉は、私が松本人だと自然に思っていて、別に違和感はないです。

ほかにも松本人だと思っている私みたいな外国人がいるかもしれない。それぞれの場所が好きだから、その松本人って言われたら別に違和感はない。みんなと一緒っていう感じがします。
　でも、こういう話になるとやっぱり一番一つの言葉で、みんなが含まれるというのは「みんな」ですね。はい、以上です。

会長
　本当に皆さんの思いはとても伝わってきて、とてもいい議論になっているなと感じています。「みんなと」というのは、ありそうですね。

委員
　「みんなで創る多文化共生都市松本」
ということで、みんなっていうことをね、お二人からもご意見ありましたように、やっぱり「みんなと」ということだと思うんです。
　今住んでいる市民の方もそうだし、外からこれから来られる方も含めて、「みんな」。それであと松本外の、例えば長野県とか国とか、関係する方とも協力して作っていくっていう意味では、「みんな」っていうことは非常にいいと思います。
　私も新聞社で長い間編集局で見出しを作る仕事をしていたんですね。新聞の見出しっていうのは主見出しが８文字で脇見出し 10 文字なんですよ。それが基本で、ほとんどそれで守られているんです。いろんな要素があるんだけれども、それを最大公約数的に含めてシンプルな言葉で表現するっていうのが私はいいと思います。ずっと思っていましたので先ほどの委員さんの案は非常に良いと思います。

会長
　ホワイトボードに書き出してみましょう。
　「みんなで創る多文化共生都市松本」がいいですかね。
　そして、脇見出しは、この案２の
　～言語・文化・心理的な違いを超えて輝き、発展するまち～
がいいかもしれませんね。
　松本は漢字の方がしっくりきそうですね。
　いかがでしょうか。皆様方、こちらご覧になっていただいて。

丸の内ビジネス専門学校教員グループ長
　ちょっと話が戻りますけど、確かに国際って国境との違いって、その際を行ったり来たりする、そこの境目が山際と同じで、あやふやなものっていうことが国際なので、やっぱりそういうことではないと思うんですよね。松本としてしっかり何を作っていくかということだと思うので、国際という言葉を別の言葉に置き換えることには、賛成です。
　その上で、多文化共生都市っていうのも、どこかでこれを他に使っているところがあるんですかね。なかなかに新鮮な言葉だなと思っています。そういう意味ではインパクトがあるなと思います。

会長
　ある程度、多くは見ない用語ですね。
　多文化共生都市という意味では、他のいろんなこういうふうなワーディングであったり行政関係者でいろんな自治体の人が見たときには、それなりにインパクトがある単語かなとは思います。
　皆さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。
　議事の方も本当に大事な点を今日決めていただいて、本当にいい議論が進めてこられたと感謝しております。
　では、基本理念に関してはこちらの方でしっかり記録していただき、次に目標のところですね、⑵で松本の国際化というところ、これも変えられるっていうことでありますかね。
　実は、おそらく2006年の総務省の多文化共生推進の報告書のあたりから、多文化共生っていうワードが日本国内で使用されてきました。実はその前から世界的に使われていて、一般的なのはむしろ多様化だったんですよね。

丸の内ビジネス専門学校教員グループ長
　立川市が2016年に多文化共生都市宣言、あとそれから多文化共生都市ビジョンを浜松市が策定しているそれぐらいのようです。

事務局
　目標のところなんですけど、わかりやすく伝わりやすくとおっしゃっていただいていたので、例えば⑶は「そだつ・まなぶ」とか、そういうふうにした方がいいのかなと思いました。交流だと、つながるとかですかね。ひらがなというか、もう少し柔らかくしてもいいのかなと思うんですけどいかがでしょうか。
委員

私は１番が「うけいれる」かなと思ったんですけど、交流って異文化を楽しむって、小さいタイトルあるじゃないですか。楽しむというのは、入口的にはそうなんだけど、最終的には、楽しみながら受け入れるってことですよね。相手をお互いにリスペクトし合うっていうところなので、楽しむ段階よりも一歩先の段階のことを書いた方がいいのかなって思いました。

それは４番も同じで、違いを認め共有するってあるじゃないですか。これ共存するの方が正しいかなと思うんですね。ともに存在を認めていくっていう、共有するっていうのは何を共有するのっていうことなので、変えた方がいいかなと思っています。

さっきの松本の国際化っていうのは、もしかしたら多文化共生化でもいいのかもしれないけど、少し言葉を変えた方がいいっていうのと、観光客は最後に来るべきかなと思いました。

会長

基本目標の今の提案としては、いわば動詞、つながりであったりそだつであったりひろがるであったり、そういった動詞をこの基本目標に持ってきてはどうかっていう、なかなか面白いなとは思いました。
はい。お願いします。

事務局

今の案は、松本市の市全体の総合計画の基本目標がひらがなで、つなぐとか、みとめるとかの表現なので、確かにそれを見たときに私も、わかりやすいっていうのは実際あったんでどうかなって思いました。

会長

いや、インパクトありますよね。

多文化共生キーパーソンの考え方も確か動詞なんですよね。あれもわかりやすくインパクトがあるな、なんてことを委員さんが思い出してくださいました。

４番はむしろ、かえる・ひろがるといった、動詞二つでどうでしょうか。

１番はつながる・うけいれるもいいと思うんですよね。

事務局

２番は支援の充実はもちろんですが、今までやってきたことの検証とブラッシュアップと思っています。

委員
　では２番はうけいれるなのかな。

委員
　１番の楽しいと思えるポジティブマインドって、あの何かこれだけが楽しいって書いているのでうけいれる・たのしむみたいなふうして、２番につながるみたいして、せっかくでしたら楽しいと思えるっていうのを何か残せたらいいかなと思いました。

会長
　１番が　つながる・たのしむ
　２番が　うけいれる・みとめる
　３番が　まなぶ・そだつ
　４番が　かえる・ひろがる
ではいかがでしょうか。よろしいでしょうか皆様。非常に私としては、心が温まる案だなと思います。
いかがでしょうか。
　では、もしよろしければ、基本理念と基本目標の方は今日の協議会では、この大きな二つをご同意いただけたということでよろしいでしょうか。
　ありがとうございました。